

<第4542回>

目的地：廃村八丁～ユルメ山（京都北山）

担当者：山本（主）・山内（副）

実施日：2024年11月9日（土）～10日（日）

形式：テント泊縦走

費用：¥4,550.-（共同費用¥1,800.- 交通費¥2,750.-バス代のみ）

参加者：5名

行程：

9日（天気：快晴）

出町柳駅前BS(7:50)⇒(9:37)菅原BS(9:53)→登山口(10:16)→(10:30)H650m(10:35)→(10:57)ダンノ峠(11:05)→(11:45)三叉路[昼食](12:15)→(12:50)品谷山(13:05)→(13:35)品谷峠(13:42)→廃村八丁(14:35)[17:15夕食 21:15就寝]

10日（天気：晴）[4:30起床・朝食]

廃村八丁(6:45)→(7:54)広域林道(8:02)→(8:19)ソトバ山(8:24)→(8:39)広域林道(8:44)→(8:46)ソトバ峠(8:55)→(9:35)東谷林道登山口(9:45)→小塩民宿(10:34)→(10:44)ユルメ山登山口(10:50)→(11:18)H480m(11:22)→(11:45)H590m(11:50)→(12:05)ユルメ山[昼食](12:30)→(13:25)P538(13:33)→(14:04)P501(14:06)→佐々里峠(14:22)→(14:40)井戸BS(15:13)⇒(15:29)京北合同庁舎前BS(15:47)⇒(17:17)京都駅前[解散]

感想：

一年半ぶりの廃村八丁。バスを降りると抜けるような青空。暖かな陽気の下、のんびりとダンノ峠に向かいます。峠の手前の迷いやすい所に新しい注意書きが貼られていたので、まだまだ廃村八丁に入る登山者もいるんやなあとちょっとホッとしました。ダンノ峠からは稜線伝いに品谷山へと向かいます。尾根筋は雑木も多いので紅葉を楽しみにしていましたが、ほとんど色づいている木を見かけませんでした。一昨年まで3年連続で同じ頃に訪れていていつも紅葉真っ盛りだったのですが、暖冬というよりは地球温暖化のせいでしょうか、ちょっと残念でした。代わりに青モミジを堪能しました。稜線を歩いていると、前回来た時よりは、特に三叉路から品谷山までは倒木が多くなったように思いました。品谷峠からスモモ谷を下り廃村八丁へ向かいます。徒渉を繰り返したり、道がわかりにくかったり、倒木も所々ありましたが、楽しい下り道でした。最後に八丁川を渡って廃村八丁に到着。とりあえず八幡宮にお参りしてから、いつもの土蔵跡の前の林でテントを設営。今回は久しぶりの共同テントで朝夕は共同食です。5時頃から夕食開始。寄せ鍋をみんなで囲んでの夕食なんて久しぶりです。美味しいお酒も飲んで楽しい夜が更けていきました。翌朝は雑炊、こちらも美味しかったです。いろいろ準備して頂いた食担のお二人には大変感謝です。

二日目もいい天気。ババ谷からソトバ峠に上がっていきます。この谷も前回来た時より少し荒れているようでした。途中ソトバ山にピストンをしてソトバ峠に到着。この峠には昔から変わらないシンボルツリーがあります。その木に集まって集合写真を撮りました。ここから東谷へ下る道は私も本当に久しぶりで大学生の時以来になります。荒れているのではと心配していましたが、途中の杉林は意外ときれいに手入れがされていて道もつづら折れで歩きやすかったです。しかし

最後に東谷に出る所がかなりの急坂で注意が必要でした。東谷から小塩まではのんびりと林道を歩きました。小塩から再びユルメ山の登るために山道に入ります。登山口から山頂までひたすら急坂を登っていきますので、結構キツかったです。山内さんに「ユルメ山ではなくキツメ山ですよね～」って言われて思わず頷きました(=^^=) ユルメ山からは最初は急な下りでしたが、掛尾峠まで概ねなだらかな道でした。しかし、途中2回の登り返しがあり、しかも行程の最終盤でしたので、結構キツかったです。掛尾峠からは京都一周トレイルに入りますので、歩きやすい山道になります。予定では常照皇寺まで行くつもりでしたが、井戸のバス停でバスの時間まであと30分となり、タイムアップで終了と相成りました。やっぱり廃村八丁はいいなあ。また来年も行くんだらうなあ(=^^=)